**【小学校・中学校・義務教育学校用】**

令和　５年度学校評価 計画

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

**達成度（評価）**
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

| 学校名 | 鳥栖市立基里中学校 |
|---|---|
| 1　前年度<br>評価結果の概要 | ・昨年度は、コロナの影響も薄れ幾分以前に戻りつつあるが、昨年度同様、行事の見直しや学校の運営の仕方を見つめ直し、働き方改革を進めていきたい。<br>・生徒は落ち着いた生活態度で、学習に行事に取り組んでいる状況である。今の状況を続いているのは、現在の取組が正しい方向である結果と思われる。今後も、今の状況を続けられるように、チェックを怠らないようにしていきたい。 |
| 2　学校教育目標 | 「誇りと生きる力を身につけ、心身ともに豊かな基里っ子の育成」 |
| 3　本年度の重点目標 | （1）小中一貫教育の充実<br>（2）小規模校の利点を生かした学力向上<br>（3）豊かな心を健やかな体の育成<br>（4）学校・保護者・地域との連携した教育の展開 |

**4　重点取組内容・成果指標**　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 進捗度<br>（評価） | 進捗状況と見通し | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上 | ・生徒全員が学びたいと思うような課題設定や教材を工夫し、生徒の興味関心を高める授業を行う。 | A | ・84．8%の教員が、校内研のテーマである根拠を明確にして表現する力の向上のために、日頃の授業に「書く活動」や「話し合い活動」を実践している。 | A | ・授業を行っているすべての教員が、校内研のテーマである根拠を明確にして表現する力の向上のために、日頃の授業に「書く活動」や「話し合い活動」を実践している。 | A | ・学校が楽しいと子供たちが話しているように、学校全体の取組や環境の良さが、学力向上に大きく影響していると思われる。 | 研究主任 |
| | ○根拠を明確にして書く力、説明する力を育むための理論や方法の共通理解と実践 | ○根拠を明確にして表現する力を育む力を育むための校内授業公開を学年ごとに各1本行う。<br>○校内授業公開の時には、学年で指導案検討会を行う。 | ・学期に1回の授業研究会を行う。<br>・定期テスト等による手立ての検証と考察(読解力を問う問題の出題とその結果分析)を行う。 | A | ・2学期に理科、数学、国語で研究授業を行うことができた<br>・定期テストにおいて、根拠を明確にして説明できるための手立ての検証と考察を行った。 | A | ・3学期に、初任研とかね特別活動の研究授業を行うことができた。<br>・後期中間テスト、学年末テストにおいて、根拠を明確にして説明できるための手立ての検証と考察を行った。 | A | ・定期的に授業研究会を行ったり、定期テストの検証や考察を行ったりと、職員が意欲的に取り組んでいる。 | 研究主任 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動 | ○すべてのクラスで「ふれあい道徳」<br>○全職員が人権・同和教育の重要性を認識するため、１人1回以上研修会に参加する。 | ・学年や学級の実情に合わせて、道徳教材の研究を継続的に行い、情報交換をする。<br>・担当を中心に各研修会の案内と参加の呼びかけを行い、参加・実施に努める。 | A | ・5月に「ふれあい道徳」を実施することができた。<br>・全職員が人権・同和教育に関する研修を行うことができた。 | A | ・全職員が人権・同和教育に関する研修を行うことができた。<br>・人権週間には、拉致問題を取り上げ学習することができた。 | A | ・5月の「ふれあい道徳」や6月の「大人としゃべり場」を通じて子供たちの様子を拝見していると、人権意識も高く、自分の考えをしっかりと述べることができる生徒が多いと感じる。 | 道徳主任 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○月1回の生活アンケートの実施。<br>○QUアンケートの「ばかにされた」の項目の否定的意見が80%以上。 | ・「いじめ・いのちを考える日」に「生活アンケート」を行い、生徒の実態を把握し、いじめの早期発見・早期解決につなげる。 | A | ・毎月定期的に「生活アンケート」を行うことができた。また、学期に1度「いじめ・命の集会」を学年主導で開くことができた。 | A | ・3学年すべてで、「いじめ・命の集会」を企画し、実践することができた。<br>・今年度は3件のいじめを認知している。昨年度より4件少なくなった。 | A | ・いじめの認知件数が昨年度より下がっていた。これは、生徒たちが落ち着いて生活していることの証である。 | 教育相談担当 |
| | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上<br>●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上 | ・1、2学期に教育相談を実施する。<br>・定期的に学級・学年通信を発行する。<br>・高校調べや職業体験等を生徒の発達段階に応じて行う。 | B | ・9月調査では、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒が84．3%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が78．7%となった。 | B | ・2月調査では、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒が前回より4%増え88．3%となった。<br>・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は、ほぼ変わらない結果となった。 | A | ・卒業式に参加し、生徒の成長を強く感じた。生徒と教員の関係性がしっかりとできていることがよくわかった。<br>・今の子供たちは、しっかりと目標をもっているように思える。「大人としゃべり場」では、大人に対してコミュニケーションも取れていた。 | 食育担当<br>生活指導担当 |
| ●健康・体つくり | ❷「望ましい生活習慣の形成」 | ○「早寝・早起きを心がけているか」のアンケート結果の肯定的意見が85%以上。<br>○「毎日朝食をとっている」のアンケート結果の肯定的意見が85%以上。 | ・定期的に、アンケートを実施し、「早寝・早起き・朝ごはん」の実態把握し、啓発・指導を行う。 | B | ・9月調査では、「早寝・早起きを心がけているか」81．9%、「毎日朝食をとっている」のアンケート結果の肯定的意見が95．3%という結果となった。 | A | ・2月調査では、「早寝・早起きを心がけているか」85．6%と前回より増加、「毎日朝食をとっている」のアンケート結果の肯定的意見が96．4%となりこれも前回より増加した。 | A | ・本校の子供たちは、生活リズムが確立している生徒が多い。特に朝食をしっかりと摂っている生徒が多いことは素晴らしいことと考える。 | 保健体育科担当<br>生活指導担当 |
| | ❹「安全に関する資質・能力の育成」 | ❹児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする。<br>○防災に関する取組を年3回以上行う。 | ・1学期に交通教室と自転車点検を行い、生徒の意識を高める。<br>・防災に関する講演会に生徒だけでなく地域の方も招待して行う。 | A | ・現段階（11月末）までで、生徒の交通事故は0件である。<br>・自転車点検をPTAと協力して行うことができた。 | A | ・今年度は、生徒の交通事故は0件である。<br>・2年生を中心に、防災教育を進めることができた。講演会等を通じて地域にも広げることができた。 | A | ・交通事故が0件ということの要因の一つに、地域の方の登校時の見守り隊の活動があると思う。<br>・防災教育を生徒に限らず、保護者や地域に広げられたことはよかった。 | 安全担当 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・OJTの日常化と連携による校務の役割分担を行い、時間外勤務を削減する。<br>・定時退勤日を実態に即した日に設ける。<br>・部活動の計画的な運営と休業日の実施。 | B | ・4月は時間外勤務が平均で、61時間となり70時間以上の教員が38%(7人)いたが、5月以降は徐々に減り、平均で35時間、70時間以上の教員が16%(3人)になった。 | B | ・時間外勤務が70時間以上の教員は、2月末では1人となったが、働き方改革を意識して勤務時間の適正化を進めている教員が50%となり、一層の意識改革が必要である。 | B | ・働き方改革の意義を教員同士で話すことも大事と考える。<br>・他校での取組で、よかった部分を情報共有することも大事だと考える。 | 教頭 |

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 進捗度<br>（評価） | 進捗状況と見通し | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ★小中一貫教育の充実 | ★教科「日本語」の実践充実 | ★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上<br>★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上 | ・授業参観日に、地域の文化や人材等を生かした体験学習を積極的に行う。<br>・小中学校での乗り入れ授業や交流活動を積極的に行う。 | A | ・1，2年は6月に、教科「日本語」の授業公開を行っている。また、3年は12月に教科「日本語」の授業公開を行っている。<br>・5・7交流として、中1と小5がスポーツを通じて交流を図っている。 | A | ・小中合同で、教科「日本語」の授業研究会をおこなった。これに伴い、講師を招いての講演会を2度実施することができた。<br>・時間外ではあるが、教科「日本語」の学習会に6名の教師が参加し、研鑽に努めた。 | A | ・今年度も5・7交流や、6・8交流などを積極的に行っていた。また、防災教育でも交流を図っていた。<br>・教科「日本語」の授業研究会を小中合同で行うことができている。 | 教頭<br>各学年主任 |
| ○開かれた学校づくり | ○地域と連携した学校づくりの推進 | ○保護者、地域の方の学校行事への参加者増を目指す。<br>○地域の人材を生かした授業や講演会を2回以上設定する。 | ・各種たよりや通信、HP、メール等を活用し、行事等の情報の発信を行う。<br>・コミュニティ・スクールの運営を通し各種団体、地域等に協力を以来し、教育活動の活性化を図る。 | A | ・6月に「防災講演会」や「大人としゃべり場」の教育活動をコミュニティスクールの方々を中心に行っていただいた。 | A | ・文化発表会では、小学5年生と6年生に来てもらい合唱コンクールや防災に関する発表を参観してもらった。その時に地域の方にも招待して参観してもらった。 | A | ・6月に行った「大人としゃべり場」では、4年ぶりにフォークダンス方式に戻して行うことができた。参加された地域の方からも称賛の声をいただいた。 | 教頭 |

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

| 5　総合評価・<br>次年度への展望 | ・今年度に引き続き、教師と生徒の関係性を高めることに努力をする。<br>・今年度に引き続き、さらなる学力向上に努める。<br>・教師の働き方改革への意識をさらに高める必要がある。 |
|---|---|